

環境掲示板

植物観察会

主催 野川公園緑の愛護ボランティアの会

日時 5月2日(日) 13:00~14:30

6月6日(日) 13:00~14:30

集合 野川公園自然観察センター前

申込 直接会場へ 参加費 無料

問合せ 0422-31-9033

春の植物観察会

主催 花と緑のまち三鷹創造協会

日時 5月11日(火) 10:00~15:00

場所 多磨霊園と浅間山公園

集合 午前10時 多磨霊園裏門

対象 一般 定員 30名(先着順)

料金 無料

申込・問合せ 電話(0422-45-8351)で

花と緑のまち三鷹創造協会へ

第59回井の頭かんさつ会

主催 井の頭かんさつ会

テーマ「鳥たちは春の渡り中

~春の夏鳥探鳥会~」

日時 5月16日(日) 9:00~11:00

事前に申込みが必要

編集後記

新緑のころとなりました。このころ植物は、成長のために多くの水を摂取するようで、野川の水も少なくなります。

今年は、市制60周年に当り、いろいろな行事が計画されています。6月にはみたか環境フェスタ2010が行われます。環境に関心を抱く人々の交流の場になることを願っております。(安達)

参加費 300円

申込み 大原 kapock@parkcity.ne.jp

HP URL <http://www.kansatsukai.net>

Tシャツからポシット作り

主催 ごみ対策課

日時 5月26日(水) 13:00~15:30

場所 三鷹市リサイクル市民工房

対象 特になし

定員 8名(多数の場合は抽選)

料金 無料

申込 往復はがきで5月20日(木)

必着でごみ対策課へ

問合せ ごみ対策課 内線2535

三鷹市制施行60周年記念事業

花のまち交流会

主催 三鷹市緑化委員会 三鷹市

日時 6月5日(土) 13:00~16:00

場所 三鷹駅前コミュニティセンター

対象 一般 定員 100名

料金 無料

申込 詳細は5月2日号の三鷹市報を参照

問合せ 花と緑のまち三鷹創造協会へ

平日の8:30~17:00に

電話0422-45-8351で

発行：みたか環境活動推進会議

(愛称 みんなの環境)

連絡先：三鷹市環境対策課

電話0422-45-1151 内線2523・2524

E-mail: kankyo@city.mitaka.tokyo.jp

本誌は、市役所、市政窓口、図書館、コミセンや市のHPから入手できます。

みたか環境ひろば 第24号

2010年5月1日発行

国分寺崖線の湧水

昭和の初期には、野川公園の湧き水広場付近から第7中学校崖下近くにかけての国分寺崖線沿いに、わさび田が点在し、三鷹の特産品のわさびが、神田市場などに出荷されていた。でも今は、箕輪一二三さんと箕輪宗一郎さんのわさび田がすこし残っているだけである。

国分寺崖線の豊富な湧水が、わさびの栽培には不可欠である。昔は、この付近の湧水量は、ずいぶん多かったようだが、都市化の影響と平成6年度に完成した東京都の下水道第二幹線の工事などの影響で減少したようだ。箕輪一二三さんのわさび田の湧水は、「東京都の下水道第二幹線の工事で、減少した」、少し北側の箕輪宗一郎さんのわさび田の湧水は、「工事の影響はなかったが、昔は、倍以上あった」とのことである。湧水量は減少したが、今でも、国分寺崖線沿いでは、ほととの餌になるカワニナが育ち、夏には自生のほとろが見られる。わさびに代わって、カラーが栽培されている。

この1年間、毎月1回、三鷹付近の国分寺崖線の湧水量の年間変動を調べてみた。当然のことながら、それは、野川の流量の年間の変動と連動していた。その上に、年ごとの長期的な変動も重なる。



わさび田に立つ箕輪一二三(かずさだ)さん



わさび田の湧水の前に立つ箕輪宗一郎さん

昨年は、この付近の湧水量は、5月頃がもっとも少なく、秋になると多かった。年平均では毎秒100リットルほどの湧水量があった。測定の精度は不十分であるが、今後も続け、この大切な湧水の保全に役立てたいものである。(安達)

みたか環境フェスタ2010

～ 6月、市民・事業者・行政が一堂に～

来る6月26日(土)に「みたか環境フェスタ2010」が開催されます。6月の環境月間行事として一昨年から「エコミュージカル」を開催しておりますが、本年はこれに加えて、「環境」をキーワードに市と市民・事業者が一堂に会する画期的なイベントが、三鷹市制施行60周年記念事業として企画されました。

地球温暖化の問題や失われつつある自然環境を直視し、考え、同時にすでに身近で環境測定、緑化活動や資源リサイクルなどに取り組んでいる団体やグループの活動の現状を市民が互いに知りあうことがこのイベントの目的です。

展示、体験、学習そして語り

みたか環境活動推進会議は、今年の夏、実行委員会を組織してこのイベントの企画を進めてきました。

会場は、市役所並びの公会堂を中心とするエリアです。参加団体は、市民グループ、住民協議会、JA、小学校、高校、および国立天文台など公的研究機構のほか、家電、自動車、精密機器などの企業が多数。それに市の環境関係のセクションも参加します。3月末現在、参加予定

団体は60を越えています。

各団体からは、パネルや実物の展示、映像もあり、一部実演・体験もされます。リサイクル製品の製造体験コーナー、また屋外の木立のなかでのアドベンチャー体験も予定しています。

エコ・ミュージカル

幼児、小学校低学年生向けのミュージカルが、併行して上演されます。昨年度の上演は、主人公の森の動物たちの目を通して子供たちにみどりの保全や地球温暖化防止への関心を呼び起こそうとする内容で、500人を越す来場者で、館内が子供たちの元気な呼び声に満たされました。今年は、このフェスタのために新作が上演されます。

このイベントをひとつの契機として、三鷹市環境基本計画で目指す「環境・共生・協働のまち みたか」の実現を市民全員で考えたいと思います。多数の市民の皆様のご参加とご協力をお願いいたします。

なお、このイベントの問い合わせ先は「三鷹市環境対策課」です。(山口)

ゴーヤで作る「緑のカーテン」

夏の日差しをさえぎる「緑のカーテン」は、建物の温度上昇を押さえることができます。昔は、朝顔やへちまが、最近はゴーヤがよく使われています。食べておいしいゴーヤのカーテンは、食費も冷房費も少しは削減してくれます。

すだれも太陽光をさえぎってくれますが、すだれは温度が上がり、すだれを通る風は冷やされません。緑のカーテンは、植物の蒸散作用で、葉の間を通る風を冷やしてくれます。いわば「天然のエアコン」となります。ゴーヤは病害虫の被害も比較的少なく、育てやすい野菜と言



マンションのベランダにあるゴーヤのカーテン
われています。今年の夏には、是非、試
みてほしいものです。(安達)

市役所の窓：わたしと祖母と、時々、祖父

「環境」についての書き物ということで、とりあえず、自然が豊かな実家のことを思い浮かべてみると、農家である祖母との生活の中に、ごみを減らすための本質があったような気がします。例えば、畑で採れた野菜の不要な部分は飼っているニワトリに食べさせ、間伐で間引かれた木々はボイラーでお湯を沸かす薪として使用していました。

「本質」などと大口を叩きながら、こんなことは当たり前で単純なことではありません。しかし、「ごみを減らす」ということを考えたとき、改めて、「いかに『物』を『ごみ』にしないか」が大切なことに気が付きます。ただ捨てれば『ごみ』になる物も、ニワトリに与えれば『餌』になり、お湯を沸かせば『燃料』になり...

とはいえ、都市部ではこのようなことを

個人で行うのは容易ではありません。事業レベルでいえば、「廃棄物発電」「エコセメント」など、本来はごみになるはずのものの再利用についてもすでに行われています。

では、個人では何ができるのか。それを考えたときに、再び祖母が言っていた言葉が思い出されました。「ごはんは残さんごつ食べんといかん!」

ただ、料理を残さないように無理をして食べれば、処理すべきごみは減っても、今度は体に付いた『おにく』の処理が必要になってしまいます。ということで、やはり、計画的に料理をするのが大事なのかなと思います。料理は作り過ぎない、居酒屋ではおつまみを注文し過ぎない、その意識だけでもごみはけっこう減るのかもしれない。 契約管理課 岩本祐樹